



平成29年11月27日  
国立大学法人千葉大学

**千葉県内での多数遺体の取り扱いを想定した検案および身元確認訓練の実施**  
～大規模災害の際に私たちができること。千葉県内の他職種が共同で訓練。～

千葉大学大学院医学研究院附属法医学教育研究センター（岩瀬博太郎センター長）は、千葉県歯科医師会との共同開催により、大規模災害や事故の際に、多くの犠牲者の死因や身元を医師や警察らが連携して調べる死因調査・身元確認（DVI：Disaster Victim Identification）訓練を26日、千葉大学医学部みのはな同窓会館で実施しました。

昨年度に引き続き第2回目の実施で、医師会、歯科医師会、全国の法医学教室、県警より約70人が参加しました。

訓練は成田空港で飛行機が着陸に失敗して炎上、50人の犠牲者が搬送されたという想定で実施され、検案所内での活動内容の確認に加え、多職種でのディスカッションを通じ、歯科所見、DNAや指紋採取による死因調査・身元確認における精度向上及び相互の理解と連携に繋がりました。

近い将来到来すると言われる南海トラフ巨大地震の発生が予測され、多数遺体発生時の遺体検案、身元確認の体制整備が喫緊の課題です。日本全国では、各種災害訓練が平時より開催されていますが大規模災害時における死者の死因調査及び身元確認作業（DVI：Disaster Victim Identification）に特化した訓練はほとんど行われていないのが現状です。

岩瀬センター長は、「実際の災害時には相当混乱するだろう。あらかじめ問題点をあぶり出し、話し合っておくために、訓練を続けることが必要だ。」と、訓練の重要性について指摘しました。



挨拶を行う岩瀬法医学教育研究センター長



DVI訓練の様子

本件に関するお問い合わせ先  
千葉大学附属法医学教育研究センター  
本村あゆみ、斉藤久子、岩瀬博太郎  
Tel：043-226-2078 Fax：043-226-2079  
E-mail：aama0171@chiba-u.jp